

あ と が き

国際環境整備研究委員会の平成15年度事業として海外調査が企画されて、当初欧州との案もあったようだが、テーマとしたバイオマスエネルギー関連調査の訪問先としては、森林資源や各種農産物資源があり、様々な取り組みを行っているカナダを決定するのに異論も出なかった。私自身、北米は初めての訪問だが、バンクーバーは随分と日本の都市に近い雰囲気、欧州に比べて親近感を覚えたのは意外でした。これは、韓国等アジア系の若者が多いためだけでなく、ダウンタウン中心街のガラス壁のビル群や一方、住居は木造で屋根の勾配、軒などが日本の洋風建築に近いこと、公園や庭に植わっている植物も見慣れたものが多かったことなどが、石造りを中心とした欧州の町並とは違ったためと思います。

計画的な都市計画もあり、大変整った美しい都市で、住みたい都市世界No.1も頷けます。

今回の調査団は、総勢12名と適当な人数であり、若手で初面識の方が多くにもかかわらず、まとまりは大変良く、和気藹々で心配には及びませんでした。入国手続き時のハプニングや紅1点の加藤さんの参加が良い影響を与えたのかも知れません。

調査の充実はそれぞれの報告が示すところですが、今回の訪問先は、従来の施設中心とは異なり、ベンチャー企業の技術調査が中心となったため、まとめにくかったかと思います。しかし、訪問先では活発な質疑が繰り広げられ、予定時間をオーバーするほどで、これまた嬉しいことでした。滞在日数が6日と短く、心残り（特にカナダの大自然に触れたかった）もありますが、また訪れたいと思うところぐらいが丁度かもしれません。雨の少ない良いシーズンに、是非妻と一緒に来たいものです。

帰国後、大使館や大阪での総領事館の方々への報告も終わり、何かと忙しい12月に入りこみましたが、各位の協力を得て立派な報告書がまとまり、ようやく副団長の役目を終えたような気がします。思い返せば含み笑いをしてしまう良い視察でした。

今回は、カナダ大使館やブリティッシュ・コロンビア州政府の方々のご支援もいただき大変感謝しています。また、これからも、参加いただいた団員相互およびカナダ企業、技術者との交流が深まるとともに、益々ご活躍されることを祈念しています。

最後になりましたが、萩原団長、各団員および事務局の田村室長、ならびに芳野添乗員、現地でお世話になった安武さんに、この調査が成果を挙げ、無事に終了できましたことに、お礼を申し上げます。

社団法人 日本環境衛生施設工業会
国際環境整備研究委員会 幹事
国際環境事情調査団 副団長 河端 博昭